

市の財政は本当に大丈夫か？

必要な事業を効率よく進めることには私も賛成です。しかし、人口減の時代、税収も減るのに、子や孫たちの負担が重すぎると思います。



- ① 同トンネルは、本来、県がやるべき県道工事であり、なぜそれを市がやらなければならないのか。
- ② 現時点での事業費が分からない。+ 四年も前の金額だけで建設に同意しているのか。
- ③ 市の財政が極めて厳しくなる中、合併特例債でさらに31億円(5割増し試算)もの借金を背負って良いのか。

建設費110億円は、十四年前に県が積算したものです。そこで、実際に建設費が3.5割増しとなる場合について市から説明があり、同案は賛成多数で可決されました。

今後、上曾トンネルはその実現に向け歩みを速めるものと思われる。真壁地区住民の長い間の悲願が叶うことは大変喜ばしい。しかしその一方で、大きな問題点も残りました。

その問題点とは

上曾トンネル 建設承認

13日から16日にかけて、第二回定例会が開かれ、桜川・石岡両市での上曾トンネル建設計画案が市長から提案されました。



桜川市議会議員 無所属
えのきど和也 かずなり
えがおと情と 突進力!

議会活動報告

2017 7. 8発行 文責：榎戸 和也
桜川市犬田480 ☎ 090-2481-6059
HP <http://www.enokidokazunari.com/>

市長の大型借金比較 …借金ペース、実質10倍！！ 表 1

A <合併特例債での借金額・事業額> …合併特例債の起債限度額 ;190億円

大塚市政(4年間)			中田市政(8年間)		
事業名	起債(借金)額	事業額	事業名	起債(借金)額	事業額
市立病院整備	約 16.1 億円	約 72.3 億円	大和中建設	約 6.7 億円	約 10.5 億円
真壁桃山学園整備	約 22.0 億円	約 29.7 億円	伝承館建設	約 10.1 億円	約 17.3 億円
上曾トンネル※	約 31.0 億円	約 65.3 億円	その他(3件)	約 13.8 億円	約 15.8 億円
その他(3件)	約 10.7 億円	約 17.8 億円			
小計	約 80 億円	約 185 億円		約 31 億円	約 44 億円
※14年前試算の50%増し試算		↑190億円の42.0% 中田市政の2.6倍	↑190億円の16.1%		

B <病院事業債での借金額>

市立病院整備	約 50 億円	(約72.3億円)
--------	---------	-----------

→ ☆市の実質返済額、42億円

C <総借金額・総事業額>

合計	約 130 億円	約 185 億円		約 31 億円	約 44 億円
----	----------	----------	--	---------	---------

借金額; ↑中田市政の4.2倍
事業額; ↑中田市政の4.3倍

貯金をすべて取り崩し、返済額も曖昧なまま、こんなに事業を重ねても、市の財政は本当に大丈夫なのでしょうか。



私は、14日の一般質問と16日の質疑で、トンネル建設事業の提案に際して市が議会に示した財政見通し(「財政計画」)について、市長に質問しました。

質疑(概略)

榎戸 この「財政計画」では、十年後に、借金が今より80億円も増えるのに、各年の借金返済額は今より2.3億円も減っている。借金が5割も増えて、返すお金がこんなに減るのはどうしてなのでしょう。

担当部長 この計画は、特例債を認めていただく為のもので、必ずしも実態を表すものではありません。

榎戸 市長はいつも、「トップセールスで頑張る」と述べています。トップセールスで重要な決断をされるのですから、財務内容のおおむねは把握されていると思います。

桜川市は今、病院建設や大和駅北開発、桃山小中一貫校建設など、市長のわずか一期4年で、総額185億円もの巨費を投じる事業を決定しています。

必要な仕事はしなければなりません。しかし、これだけの事業をして、借金額がどうなり、毎年返すお金はどうなるかということは、当然市長はお分かりのことだと思います。そこで、市長に、改めて伺います。

この、「借金がこれほど増えて返すお金が減っていく」というのはどうしたことなのでしょう、説明を求めます。

市長 細かい数字は分かりません。職員に任せているので、よく聞いてもらいたい。

榎戸 細かいことではなく、大事なことです。職員の方には伺っていますが、納得させていただけたいと思います。そこで市長に伺っている。

市長 議員は、県にまで問い合わせをしている。

私は職員を信用しているが、榎戸議員は職員を信用していない。

市民の負担は

増えている

就任当初、市長は、「財政が厳しくなる。」と言い、施設使用料の値上げ、投票所の半減、農業関係費の削減など、市民に負担を求めました。

しかしその後、態度を一変させ、相次いで借金を重ね、大型事業優先へと方向転換。費用対効果を考えず、広大な土地購入をしたりしています。

さらに、不透明な決定によるフィリピンとの国際交流など、毎年の支出増につながる施策も進めています。

「子どもたちの英語教育」の為に、ことですが、英語教育で、何故、どういう経緯でフィリピンなのかは不明!

大塚市政の4年間

見えてきた不安

借金11実質3年間で130億円

※大塚市政の借金ペースは前市長（実質7年）の十倍

多くの事業を行った大塚市長には、決断力・実行力があるという評価もあります。

しかし現実には、不透明な意思決定から生じる、大変な無駄遣いがあります。市政は混乱していると言っべきです。

★問題なのは、不透明な政策決定や費用対効果を考えない財政運営です。このままでは財政の硬直化が進み、市民生活に多大な影響を及ぼすことが心配されます。このまま、良いはずはありません。



確かに、仕事をすればお金はかかります。しかしだからと言って、いくら借金をしてもよいという訳ではありません。

私は、市の資料をもとに専門家にも話を聞き、表1（表面）を作成しました。中田前市長時代と大塚市長正味3年間の、合併特例債などの大口起債決定額を比較するためです。

ここで両者の起債決定額を比較すると、前市長の実質7年間で31億円に対し、大塚市長は、実質3年間で135億円にのぼり、半分以上の期間で、4倍以上の借入れを決めています。

これは、いわば固定費とも言える借金返済額が増えるということだと思います。こうした中、今まで蓄えた35億円の貯金（財政調整基金）もほとんど無くなります。

大雨や地震などの災害が起きても、それに対処する手持ちのお金があれば、何もできません。

現実を踏まえた私の基本姿勢

今、大和駅北地区では病院の建設が始まり、小中一貫教育校の市立桃山学園も、来年3月を目途に開校します。

この現実を踏まえ、今後、これら桜川市の課題にどう向き合つか。以下、私の基本姿勢を示します。

教育は中身の問題

一体型の小中一貫校は、桜川市初の取り組みであり、多岐にわたる課題があります。

モデル校になるか、実験校になるか。市内外の関係者が注目している。

現場に混乱を招かず、子供たちが安心して通えるよう支援していきたい。

地域医療センターへの対応

桜川市の「さくらがわ地域医療センター」には、「茨城県西部メディカルセンター」（筑西市）等の後方支援病院として、内科・外科・小児科・整形外科・眼科の5診療科を置くことになっている。

もし、他に診療科を置ける余地があるなら、需要があり、採算が見込める診療科の設置を支援していきたい。

医師確保、指定管理料の問題等が、今後の課題となるが、市の医療環境の向上と市財政の健全化との両立を訴えていきたい。

決意 新たに

人も税収も減る時代にあって、私も地域の発展のために、より一層、力を尽くして行きたいと考えています。

市民の皆さんには、桜川市政の実態を知っていただき、ともに立ち止まって考えていただければと思います。



費用対効果を考えていない！ 例えば..

性急な桃山中一貫校建設

桃山中学校への真壁小と紫尾小の統合に要する経費は、道路建設費を含め**35億円**を超えている。これは同規模の校舎2校分に相当。

仮に、真壁小で2つの小学校を統合し、桃山中との**連携型小中一貫校**にすれば、少なくとも**建設費は半額**。コスト感覚を著しく欠いた決定だったのではないか。

しかも、こうした重大な事について、専門家や地域住民、OBや新入予定児の保護者等の意見を十分に聞くことはありませんでした。当時のPTAの請願はあったが、それにしてもわずか三カ月で決めてしまったのは乱暴ではないか。

146年の伝統がある小学校2校の、廃校を惜しむ声は今も大きい。

今後、跡地利用問題が残る。子供達の登下校の負担も増し、安全性の問題もある。

そもそも教育効果はどうなのか。そこには、伝統を守るという思いは感じられず、真壁の名を残してきた先人たちの努力や思いが生かされなかったのは、たいへん残念。

市立病院 現地で建替えなら半額

新しくつくる128床の市立病院は、県西病院の約3分の1の規模。使える部分を一部残し、現地で建替えれば、せいぜい40億円もかければ病院は建ったはず。土地・公共下水道があり、造成費も軽微。市街地にあり、何より、多くの市民にとって便利。

それにも拘わらず、大和駅北地区の土地取得費5億円、基幹道路整備費10億円、約67億円をかけての病院建設。計82億円は、現地建替えより**42億円も余分！**

計画性のない開発事業

27haの土地すでに取得

活用が決まっているのは病院用地2.6haと基幹道路用地分のみ。残りの**20数ha**はいまだに**使い道不明**。

利用計画がハッキリせず、**費用対効果**が見込めない土地は、**公金**を投じて買うべきではない。バブルの時代でもないのに、今の桜川市に、**不動産開発事業**にはげむ余裕はない。

